

<https://www.youtube.com/watch?v=AX9xHHJfrkE>

おはようございます。日曜日朝の第二礼拝へようこそ。日曜日には2つの礼拝があります。第一礼拝は聖書預言に捧げています。毎週、聖書預言のアップデートを行い、第二礼拝は説教で、節ごとの聖書の学びです。現在、テモテへの手紙第二を学んでおり、本日の箇所は第2章、最初の7節です。まだの方はその箇所をお開きください。その間に、新ウェブサイト：JDFarag.orgについてお知らせしたいと思います。そのサイト上にフォーラムがあり、非常に活発で、また大変祝福されています。確かに挑戦ではありますが、同時に祝福でもあります。まだの方は、ぜひ JDFarag.org を ご覧になってみてください。では、御言葉に参りましょう。今日の学びを、とても楽しみにしていました。可能な方はお立ちになり、私が読むのに付いてきて下さい。無理な方はそのままでも結構です。テモテへの手紙第二の2章、1節から始めます。使徒パウロはテモテという名の若い牧師に手紙を書いています。彼を、10代の若者のように思ってはなりません。テモテは、いくつかの説では、まだ若い30代であり、パウロはもちろん、人生の終焉を迎えています。これは、パウロが書いた最後の手紙です。それはパウロの別れの言葉のようなものです。彼自身が1節目でそう言うように、息子のように思い愛しているテモテへの手紙としては、これ以上に良い手紙はないのではないのでしょうか。

### テモテへの手紙第二 2章

1 ですから、私の子よ、キリスト・イエスにある恵みによって 強くなりなさい。

2 多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。

3 私と苦しみをともにしてください。キリスト・イエスの立派な兵士として。

4 兵役についている人はだれも、日常生活のことに煩わされることはありません。ただ、兵を募った人を喜ばせようとしなさい。

5 また、競技に参加する者は、規則に従って競技をしないならば、栄冠を受けることができません。

6 労苦している農夫こそ、最初に収穫の分け前にあずかるべきです。

7 私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに与えてくださいます。

ではご一緒に、祈りましょう。主よ、あなたの御言葉を感謝します。ああ、主よ、これはいのちです。これは、私たちにとっていのちです。これは、いのちのパンであり、飢えて渴いた魂のための、いのちの水です。主よ、私たちは今日、いつもあなたがなされるように、あなただけに可能な方法で、私たちのあなたに対する渴望を満たしてくださることを知っています。主よ、あなたの御言葉を通して私たちの人生に語りかけてください。イエス様の御名において祈ります。アーメン、アーメン。着席してください。ありがとうございます。

私は今週、この2章の聖句を時間をかけて読み、心から主を求めました。正直に言うと、主が私に何を語らせようとしているのかについて、少し苦戦しました。そして主は、『致命的な危険』という問題について、私の心を定めてくださいました。怪しげなタイトルだとは思いますが、私が主張したいのは、これはクリスチャンの人生で、最も致命的な危険の一つです。私たちは今、危険な時代に生きていると思いませんか？今や、教会ごっこをやっている場合ではありません。ここは遊び場ではありません。

ません。 私たちがいるのは戦場であり、特にこの終末期、 戦いは激化しています。 皆さんが私と同じならば、そしてそうだと思いますが、 これが、私たちが神の御言葉を愛する理由です。 人生においてあなたがどこにしようとも、 それは常に語りかけてきます。 あなたが神の御言葉のどこにいるかは関係ありません。 今日の御言葉の如く、 あなたが人生のどこにしようとも、 何が起こっているようにも、 あなたに語りかけます。 私は5つを見つけました。 もっとあるかもしれませんが。 クリスマスにとって致命的になりうる5つの危険です。 霊的な意味で致命的、という意味です。 死んだクリスマスです。 いのちも喜びも、情熱も何もありません。 いうなら歩く死人のようなものです。 生きていないのです。 彼らは、ただ動き回っているだけです。 このような危険が、クリスマスの生活の中に潜んでいることがあるのです。 今日はそれを見ていきます。 まずは、最初の1節から見てみましょう。 これは決定的です。 ”律法主義”です。 ここで使徒パウロはテモテに、 自分に必要な力の源はキリスト・イエスにある 恵みから来ることを伝えています。 私たちは1節目を読む時、 その節を通り過ぎるだけのときがあります。 しかし、ここでパウロが言っていることから考えると、 それは大きな誤りだと思います。 当たり前のことかもしれませんが、 全ては恵みの賜物であって、行いの結果ではありません。 ここでパウロがテモテに言っているのは、 見落とされがちです。 彼はテモテに、『キリストにあってあなたが持っているその強さは、恵みによってもたらされる。』と言っています。 強さはそこから来る、それがあなたの強さの源だ、と。 私の考えは、こうです。 そうでなければならぬのです。 もしそうでなければ、神からの分不相応な好意 恵みがなければ、私たちは自分の罪悪感と有罪判決の重みで押しつぶされるからです。 もし、私たちが神の祝福と好意に値すると考えるならば、そこから私たちが実際行うことは… (そしてこれが敵が私たちにさせようとするのですが)、 恵みの中から、行いに移ることです。 それが肉であり、これ以上に最悪な場所はありません。 チャック・スミス牧師が書いた本があります。 私の蔵書で一番好きな本の一つです。 タイトルは“なぜ恵みは全てを変えるのか?”です。 その本の中で、彼は… とても完璧な描写をしています。 庭と工場を比較しているのです。 もうここで要点が見えてきましたね。 工場には何がありますか? 汗、ストレス、納期、労苦。 庭には? 安らぎ、落ち着き、静けさ。 労苦も汗もありません。 旧約聖書では、祭司が幕屋で、後には神殿で奉仕する中での厳しさが印象的です。 彼らは自分の肉体をすべて覆う長衣の着用を求められました。 生け贄を捧げるため祭壇に上るとき、身体が露出しないようにするためです。 なぜなら、肉は神の前では栄光を得られないからです。 それは必ず綿製でなければいけませんでした。 それは、汗や苦役、肉のない、恵みの描写でした。 恵みは、すべてを変えます。 ここで質問が出てきます。 あなたのクリスマス生活の特徴づけるとしたら、それは工場の特徴に似ていますか? それとも庭に似ていますか? 庭で何が起こるかご存知ですか? いろんなものが育ちます。 工場では何が起こっているのでしょうか? 物が生産されます! 強調するためにそう言ったのですが… 『仕事だ、納期を守らなければならない。 生産しなければならない、頑張れ行くぞ!』それが工場です。 そのような人生ですか? あなたのクリスマス生活に似ていますか? もう一步踏み込んだ話をさせてください。 こんな感じです。 先週は良い一週間でした。 感謝祭でした。 あなたは主の豊かな恵みを ありがたく思い、その感謝の気持ちを示します。 確かに、主は豊かな恵みの神ですね、本当に豊かです。 なかなか良い一週間でした。 そうですね… 『今週は、神が良くしてくださっている。』 あなたはそのように生きるのですか? 悪い週の場合はどうなるのですか? 『大人しくしていた方がいい。』何を言っているのですか? 『ああ、ちょっと失

敗したので。』あなたは恵みの下にいないのですか？ まるであなたは律法の下にいるようですね。使徒パウロが、**コリント人への手紙第二の3章6節**で書いていることを見てみましょう。

**「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者（律法のことです）ではなく、御霊に仕える者となる資格です。文字は殺し、御霊は生かすからです。」**

最も残念なクリスチャンは、常に神の好意を得ようとする 圧迫感の下で生きているクリスチャンです。そのようなものではありません。なぜなら、このようなことになるからです。そんな思いで生きていけば、敵はすぐそこに再び現れます。『神はあなたに怒っている』と。そして罪悪感と罪の宣告という基盤を あなたの中に築き上げるのです。どんなに強いと思っているクリスチャンでも、律法主義の重圧に耐えられる人はいません。それは、あなたを滅ぼすでしょう。律法は殺し、御霊は生かすからです。それが恵みです。私が言うことを、このように考えて下さい。自問自答してみてください。

「神が自分を愛さなくなるなど、絶対にありえない。そのことを本当に信じているか？」と。考えてみてください。あなたの一週間は最悪だったとしましょう。失敗を犯し、全てが台無しです。天国の神が、「何だと、またしでかしたのか!？」などと、お怒りになるのでしょうか？ それは、ありません。それは恵みの中にあるからです。行いの下ではなく、恵みのもとに生きているとき、それは神の恵みです。それは神の優しさです。神が、恵みゆえに、あなたを砕くことなどないと気づいたとき、それがすべてを変えるのです。すると、『大人しくしていた方がいい。しくじってしまった。』などと距離を置く代わりに、『いいや、私は許されている。許されてるんだ。』となります。

恵みとは何でしょうか？ 私たちは”分不相応な好意”と定義していますが、それは、恵みという定義の表面を 触れることにもならないと思います。ある人が言っていたように、恵みとは、定義できないものだと思います。“Undefinable”（定義できない）です。そんな単語がありますか？ あることにしておきましょう。”Undefinable”です。よくこう言われます。恵みとは、神が、自分に値しないもの、受けるに値しないものを与えられることであり、慈悲とは、神が自分に値するものを与えられないことだと。私は両方いただきます、ありがとうございます。エペソ人への手紙2章8～9節。よく知られた聖句です。

### エペソ人への手紙2章

**8この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。**

これが行いに関しての真実ではないでしょうか？ 『見てください、ああ、神の寵愛を受けた私を。』『間違いなく、あなたは神の恩恵を受けていますね。』いい加減にしてくださいよ。そんなクリスチャンの生活は工場であって、庭ではありません。それは恵みではなく、行いです。行いは殺します。律法は殺します。恵み、聖霊はいのちを与えます。二つ目は..すべて大きな問題ですが、この問題は大きいです。ビッグの中でも特にビッグです。”利己主義”です。パウロがここで言うことの重要性は、1節と同様に、初めて読んだときは見落としがちです。“クリスチャンは自分たちにとっての孤島ではない”ということです。説明しますので聞いて下さい。自分のことばかり考えると、私たちは島のように孤立してしまいます。そしてその後、私たちはイスラエルの死海のようになります。何も流れ込まず、また流れ出ず、その中で何も成長しません。この理由から、パウロはテモテに、受け取ったものを他の人に与え、委ねるように勧めるのです。私は...この例えについて主に尋ねてきました。どうかご忍耐ください。私はこう描写します。この教会のどなたのことでもないことを 知っておいてくだ

さい。あなた方はとても素晴らしいです。他の、肉的なクリスチャンの話です。彼らは教会に入ります。自分の事だけを考えて、座ります。他の誰かがそこに座っているなんて、とんでもないことです。『そこは私の席だ。』と。そしてどんな身振りかという？ なんていうことでしょう。（腕を組んで偉そうな態度）『オーケー、では始めてくれ。』『今日のワーシップ（賛美）は良いものにしてくれよ。』すみません、誤解があるようです。このワーシップはあなたのためのものでしたか？ ちょっと待ってください。ええとつまり…これがあなたが言わずもがな言ってることです。皆さんのことを言っているではありません。他のクリスチャンのことです。皆さん誰も腕を組んだりしていません。それは確かです。彼らはこんな風に座っていて…（笑）『オーライ、俺を祝福してくれ！』それから牧師が立ち上がります。この人が牧師ですか！？ 『この男は、これから何を話すつもりだ？ 長々話さないでくれよ。』あなたは教会を間違えました。ここに来れば…（笑）皆さん既にご存知です。『おい、俺の聞きたいことを話してくれ。』『俺の知ってる曲にしてくれ。その曲は知らない。』あ、そうなんですか？ では教えて差し上げましょう。そしてこれが次に起こることです。これは悲しいクリスチャンですね。もう一度言いますが、ここの方々ではありません。他の場所の肉的なクリスチャンについて話しています。それは、『私が中心だ』と言うクリスチャンです。私たちが歌うこんな曲があります。私が大好きな曲です。これをやることで台無しにしたくはありませんが…

♪イエス様、あなたがすべてです～♪ 嘘つきめ！！ いや、そうですね？ イエスが全てではなく、自分が全てですね！ あなたはこんな感じで… 『このワーシップで私を祝福してくれ。』『一緒に歌いたい。知っている曲にしてくれ。私の好きな曲でなければならぬ。もし私がその曲を好きになれなかったら？ あなたのことも好きではない。』何が悲しいか分かりますか？ これに長く時間は取りません。理由は明白だと思います。しかし、何が悲しいか分かりますか？ 後で見ますが、第二テモテに書かれています。これには本当に心を痛めています、真剣な話です。教会や牧師は、これを黙認しています。手早く、活動的で、面白く、妥当なものにしようとしています。『ワーシップは、カッコいいものにしてくれよ。』『特殊効果がいる。照明、スモークマシンとか。』またしても悲しいことです。お聞きください。私はこの世から抜け出し、この世から離れるためにキリストのもとに来たのです。教会の中に、この世を見つけるためではありません。教会の中には、ロックコンサートかと思うような場所もあります。年を取ると音楽の音がうるさくなりますよね？ 若い時は「ほら、音量上げろよ！」って感じですが、年をとったら、『あ～、音量下げてくださいよ～。』となります。そうですね？ えっと、ちょっと待ってください。これは人間のパフォーマンスなのですか？ それとも神への賛美でしょうか？ 私たちが天国に行ったら、何をしたいと思いますか？ 御座の前で賛美するのです。『価値ある、価値ある、価値ある、ほふられた小羊。』『聖なる、聖なる、聖なる……。』崇敬はどこにあるのですか？ 聖さはどこにありますか？ それは失われてしまいました。もはや人間中心です。人間中心の説教です。『〇〇のための5つの鍵。』『〇〇のための7つの秘密。』何ですって？ ちょっと待ってください。それは聖書のどこにありますか？ まるでセミナーみたいですよ。

三つ目は、3～4節です。“足手纏い・もつれ”です。ここでパウロは、クリスチャンにとっての潜在的な危険に関する3つの描写から始めています。これは、イエス・キリストの良き兵士としての苦しみと関係しています。具体的には、この世のものに巻き込まれないこと、あるいは、この世のものに気を取られないことです。私たちは戦争をしているのです。そんなことをしている暇はありません。我々は戦争中なので、それらは取るに足らないことです。『しかし、それは良いことです。』と仰る

方もいるでしょう。いいでしょう。良いことかもしれませんが、もしあなたがそれから自分自身を切り離し、否定しなければ、事実上巻き込まれ、気が散り、あえて言うならば、そのことによって、道を踏み外すことになります。それはクリスチャンの生活の中で、危険なことです。兵役に就いている人や、まして 戦場にいる人たちのことを考えてみてください。ところで、興味深いことがあります。パウロは、「良い兵士」と言っています。それが示唆しているのは、自分は兵士かもしれないが、必ずしも良い兵士ではないかもしれない、ということです。良い兵士とは何でしょうか？ 良い兵士とは指揮官を喜ばせようと仕える者のことです。我々の指揮官は誰でしょう？お分かりですね？ これは、いとも簡単に『人を喜ばせようとしているのか、神を喜ばせようとしているのか？』という議論になり得ます。ところで、1節の部分で、忘れていたことがあります。ここで補足的に加えておく必要がありますが、パウロが『（自分が受け取ったものを）“忠実な”人たちに委ねなさい。』と言ったことに気づかれましたか？ 彼が言っていないことに注目してください。才能のある人に委ねなさい、とは言っていません。『見ろ、彼らには才能がある。彼らにやらせよう。』そうではなく、信頼できる、忠実な人間に委ねるのです。その日が来たら、私たちは皆、主がこう仰るのを心待ちにしています。

### 『よくやった。あなたは忠実で信頼できる、良い僕だ。』（ルカ 19:17 参照）

『よくやった。生産性が高くて良い。』ではありません。それは工場です。主は、『よくやった。実りが多い。』などと言うつもりさえないと仰います。ただ、『信頼ができ、忠実だ。』とだけ仰います。もし私が他のことに巻き込まれ、気を取られたりしていたら、どうして頼りになる、信頼される存在になれるのでしょうか？ 4節、4つ目です。これは再び、大物中の大物です。“不誠実”ここでパウロは、良い兵士の描写から、スポーツ選手の描写へと移ります。興味深いのが、冠をもらうために走っている選手の 忍耐力や持久力の話をするのかと思いきや、そうではないのです。繰り返しますが、最初に読んだ時には見逃す可能性があります。彼は実は、ルールに関して、選手のことを描写しています。彼は、選手がルールに従わない場合、彼らは失格であると言っています。彼は何の話をしているのでしょうか？ 彼が言っているのは…私と一緒に想像してみてください。これが私の考え方です。臨床用語があるのは知っていますが… もっと良い表現があれば、後で教えてくださいね。ランナーがレースに出ています。オリンピックだとしましょう。大胆にいきましょう。さて、あなたはオリンピックを見に来ています。100メートル走がありますね。あなたが見ている選手たちはこの瞬間のためにすべてをかけて練習してきました。彼らはスタートラインにいます。ピストルが鳴り、パッとスタートを切ります。彼らは走り始めます。その時、ある一人の男性が突然、競争路を横切っていきます。「彼は何をしているんだ？ルールを破っている！」そうです。『彼は失格だ！』それが要点です！ 彼は近道をしようとしているのです。不正行為です。それは不誠実です。それがパウロが言っていることです。彼はクリスチャンの生活の中で、誠実さと純粋さの限りない重要性について話しています。ルールブックが何か知っていますか？ ここにあります。（聖書）これです。これがルールブックです。私たちは、自分たちがクリスチャン人生と呼ぶレースを、御言葉に従って走っているのでしょうか？ これは、残りの時間を費やしたいと思う最後の1つにぴったり繋がります。ああ、今日皆さんの前に立って、クリスチャン人生には 近道があると言えたらいいのですが、近道はありません。その考えは、私たちの肉体が切望するものですよね。「おい、もっと簡単な方法があるよ」と。「ほんとですか？どんな方法？それが欲しいです。どこにサインすればいいですか？」売れました。

”怠惰” ”霊的な怠惰”です。この最後のものは、おそらく、すべての中で最も重要なものの一つでしょう。なぜなら、パウロがここで言っているのは…そしてここで注目して頂きたいキーワードがあります。「**労苦している農夫**」です。ただの農夫ではありません。これは「**労苦している農夫**」です。私は小さな農場の町で育ちました。ワシントン州のテコアです。小麦やレンズ豆。本当に小さな町、農場の町です。農家の人たちは一生懸命働いていました。彼らは本当に働き者でした。そうでなければ、繁栄するどころか、生き残れません。ここでパウロは、ルールに従う誠実な選手から、一生懸命働く農夫に移っています。この重要性を強調しすぎることが可能であるか分かりませんが、クリスチャンの人生における霊的な怠惰は非常に危険なことです。箴言に、私たちがいつも理解を持って納得できる箇所があります。そしてそれは 労働という文脈を見れば当然かもしれません。

**「いかなる労苦にも利益がある。無駄口は損失を招くだけ。」（箴言 14 : 23）**

この箴言をご存知ですね。今まで、霊的な意味でこれを見たことがありますか？ それは私たちが、クリスチャン人生が重労働であると理解していることを前提としています。弱虫のためのものではありません。クリスチャンの人生には、勤勉さと警戒心の両方が必要です。それは大変なことです。7節に注目していただきたいと思います。これは、私には、すべてを要約しているように思えます。使徒パウロが書いている、最初の6節分を…つまり…彼は…このように考えてみてください。彼は息子として愛しているテモテに心を注いでいます。彼は間もなく自分の命が尽きることを知っています。彼が殉教する日はそう遠くないと。そしてそうなります。テモテへの別れの言葉は、テモテを知っているからこそ。これをテモテはどのように受け止めていると思いますか？ ああ、私は彼が打ちひしがれているのを知っています。「使徒パウロは父親だった。信仰において父親だった。しかし今や、彼がいなくなる日はそう遠くない。」「彼は、私を待ち構えているもののために、私を備えさせたいと思っていて、私に語ってくれている。正確に言えば、警告してくれている。」「これらが、あなたに必要なことです。」と。「これらがあなたが避けなければならないことです。危険なことだからです。」私たちが今まで見てきたものを 全て逆にひっくり返すことが出来ます。私たちは、律法主義の代わりに恵みについて話し、自己中心の代わりに、無私無欲。巻き込まれることに関してはどうでしょうか？つまり、献身的で脇目も振らない、断固たる忠誠心。『私は動かすものは何もない。何にも気を散らされず、何も私を揺さぶるものはない。何にも動じない。』『私の目は、栄冠から離れない。』「これはどうですか？」一興味ありません！ 良い兵士はどうでしょうか？ おそらく、これについてももう少し時間を費やすべきでした。苦しみに関する説教を聞くのは難しいでしょう。そうですね？それは心を引くものではありませんね？ つまり、もし私の説教のタイトルが、「苦しむ良き兵士になる方法」だとしたらどうでしょう？「もうこんな時間…」「それっていつ？残念…！その日は忙しいよ…」7節でパウロはこう書いています。

**「私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに与えてくださいます。」**

個人的に、これは難しいことだと告白せねばなりません。私はただ、皆さんに正直でいたいのです。皆さんに不快な思いをさせないことを願い、私のことを違った風に見ないことを願いますが…。これは私にとって葛藤です。どういう意味か説明します。私の非常に忙しい生活を静め、ただ聞いて、じっくり向き合い、考え、ましてや洞察力のために 祈ることは、私にとって簡単ではありません。自分に正直になるなら、私たちの生活は、ただ騒がしく、忙しいものであると認めざるを得ないのではな

いでしょうか。私たちの注意を引こうとするものがたくさんあります。それは、ソロモンの歌に出てくるような、詩的で壮大な感じです。

「さあ、立って出ておいで。出ておいで。そこから離れるのです。」 「私と来なさい。私と一緒にいきましょう。」 (雅歌 2:10 参照)

「わたしはあなたに、伝えたいことがある。あなたに見せたいものもあるし、話したいこともあるが、それが出来ない。なぜなら、あなたの生活の音量が、とても大きくなってしまっているからだ。わたしが話すとき、わたしは聖霊の静かな小さな声で話す。わたしは他の声と競うつもりはない。私の音量を上げることもしない。わたしの声が聞きたいのであれば、他の音量を下げなさい。自分自身を平穏にするのです。」 私たちが生きている時代は…ソーシャルメディアのことを話し始めるつもりはありません。出来ますが、しません。しかし、ある人が雄弁に言っていたように、それは孤独であり、シンプルであり、静かです。簡単ではありませんね。私は白状しているのです。私は皆さんの前にこんな感じで、立つつもりはありません… 「おい…！」と。ともかく神はそんなこと許されませんが…冗談でしょう。私がそんなことしようとするなら、一瞬で後ろに稲妻が落ちますよ。静けさを手にするには、大変な労力を要します。努力する必要があります。こんな風に思います。主が当時の私の人生にとっても重要な新鮮な洞察力、貴重な洞察力を用意しておられた時、私はそれを何度見逃したのかと。なぜなら私は、主とじっくりと向き合い、主と静かに過ごすことをしなかったからです。私は努力したと、言わせて頂きます。祈りのことを話しているではありません。祈りは別の問題であり、恐らく別の機会のトピックでしょう。私にとって効果的だったことがあります。もし試されたいなら、皆さんにも効果があるかもしれません。私が一番上手く祈れるのは、歩いている時です。私は主と歩きながら、主と話しています。それが私の祈りの時間です。私の最高の祈りの時間。私には祈りの日記、祈りのリストがないという意味ではありません。私は祈ります。しかし、私がただ歩きながら、主と話している時… 人々は私がおかしいと思います。そして実際そうですが…自分のオフィスの静けさの中でやるようにしています。ただ主と話すのです。「ああ主よ、ありがとうございます。感謝します、主よ。お父さん、ありがとう。」「主よ、私はこれに向き合わなければならないのですが、助けてくださいますよね？ あなたが助けて下さるのは分かっています。あなたはいつもそうして下さいます。あなたはとても忠実です。主よ、本当にありがとうございます。」ただ話すのです。ところで、祈りは独り言ではありません。それは対話です。くだらない描写だとは思いますが、再度、もっと良いのがあれば教えてください。電話がありますね？ああ、これ（アンテナ）はもう使えませんが。古くて、時代遅れです。今はこう（アンテナなし）です。もっと言えば、エアポッドです。耳の部分は、神があなたに語りかけていることで、スピーカーは、あなたが神に祈ることです。互いに語り合うのです。神はどのように話しますか？ ああ、あなたは彼の声に気づくでしょう。羊飼いが話すとき、羊は彼の声を知っていますね。そして、神はいつも何よりもまず第一に、彼自身の御言葉を通して語られます。もしあなたが神の言葉を聞いたと思い、それが（御言葉と）一致しない場合は… それはどういう意味だと思いますか？ ロケット科学者でなくてもそれが神ではないと分かります。他に何と言えいいのか分かりません。問題の真意は、霊的に怠惰であることの方が 断然楽で簡単だということです。勘違いしないでください、敵はすぐそこにいて、1日に1000回1000通りの方法で、あなたが望むものを何でも用意しています。「ほら、メールをチェックするんだ、インスタグラムをチェックして。」

私はしないと言いましたが、 たった今してしまったので言います。 ツイッター。フェイスブック。その他すべて。私がこれを言う時、自分自身のことを語っています。 それは有罪そのものです。もし私たちが、メールやソーシャルメディアに 費やしている時間の4分の1、25%の時間を、主と共に、主の前で静かに時間を過ごしたらどうなるでしょうか。 たった25%です。私は今とても、罪を示されています。 皆さんもそうでしょう。 うぬぼれた聖い目で見ないでください。「うわあ！牧師さん、あなたと一緒にしないでくれ。 人生の勝利はどこにあるんだ？」 一分かっています！難しいのです！簡単な方を選ぶとどうなるかご存知ですか？ 私たちは、クリスチャン生活の中で 重い代償を払うこととなります。 特にこの終わりの時代に。今日のアップデートはわりと強烈でした。「何を言っているんですか。毎回アップデートは強烈ですよ。」 と仰る方もいらっしゃいますが、分かっています。 しかしそれは、今の状況が非常に強烈だからです。 なんとということでしょう。先週なんて… 感謝祭は静かで穏やかだと思っていたでしょう。「まあ、感謝祭なんだから。」と。冗談でしょう？先週だけで、 どれだけのことが起こったかご存知ですか？ 私は考えます。「主よ、今起きていること、そしてこれから起こることを見ながら、私はあなたと時間を過ごしていません。そして、もしではなく、それが起こる時、一それは起こります一それがやって来た時、私の準備では不十分でしょう。私は、強くあることはおろか、 どうやって生き残ればいいのでしょうか？」と。イエスがマタイ7章で教えられた喩えで 終えていきたいと思えます。それは私のメモにはありませんが、 聖霊が私に、最後にそれについて話させようとしておられると思えます。最近でも、何度も話したことがあります。もしかしたら今日、私たちが理解するために、 適切で有益なことなのかもしれません。それは2人の建設者のたとえです。覚えていますか？ マタイ7章。イエスは二人の建設者を比較されています。二人には明らかに多くの共通点がありました。彼らは二人とも家を建てます。二人とも近くに住んでいたに違いありません。なぜなら、二人とも同じ教会に行き、 同じキリストの言葉を聞いていたからです。一つ違いがありました。一人の建設者は砂の上に家を建てましたが、もう一人の建設者は岩の上に家を建てました。そこで、”もし”ではなく、嵐が襲った”時”、一そして、嵐は必ず襲います一、砂の上に建てられた家は崩れ落ちました。イエスは注意深く、非常に具体的に仰っています。それが倒れてしまった時、 **「その倒れ方はひどいものでした。」** (マタイ7:27 参照) 興味深いです。対照的に、岩の上に家を建てたもう一人の建設者は、 嵐が襲ったとき、「ああ、貿易風が吹いている。平気だ。」なぜでしょうか？「私は岩の上に立っているからです。」「何も私を動かすことはできない。私は力強く立っている。」何年も前、これは私たちの「BC」時代でした。「Before Christ/ キリスト以前」ではなく、「Before Children/ 子どもが生まれる前」の私と妻の時代。本当にすみません。でも言いたいことは分かりますね。『まだ旅行が可能だった時』のことです。 ナイスフォローですね。使わせていただきます。子どもができる前、 私たちはオレゴン州のキャノンビーチまでドライブして、 そのキリスト教カンファレンスセンターに 泊まっていました。彼らは世界中から講演者を招いていました。 本当に素晴らしい時間でした。私たちはそこで、キャノンビーチへ出て行くと、 ヘイスタック・ロック（海食柱：柱のような形状の岩） と呼ばれるものがあります。ちょうど真ん前、水の中にです。潮の満ち引きに応じて、干潮なら少し近づいて、満潮ならさらに遠ざかります。しかし、ここで波が岩に打ち付けていて、 その岩の上には鳥たちがいます。近くで見ると、鳥たちは、 嵐や、その岩に打ち付ける波など 全く気にしていないのです。彼らが何をしているかご存知ですか？ 彼らは自分の創造主に向かって歌っています。なぜなら、彼らは岩の上にいるからです。何も彼らを動かさせませ



ん。彼らは岩の上にいるので、何も気になりません。では、違いは何だったのでしょうか？ たとえの要点とは？砂と岩の違いは？ああそれは…砂の上に建てた人は、自分が聞いたキリストの言葉を 実践しなかった人でした。岩の上に自分の家を建てた人は、キリストの言葉を実践したので、落ちたり、崩れたりしませんでした。そして、それが違いを生んだのです。これは、ヤコブが言った「神の言葉をただ聞くだけで、行う者となっていない。」という言葉と少し似ていませんか？（ヤコブ1：22 参照）彼はさらに踏み込んで、こう言っています。「神の言葉を聞くだけの人は、鏡の中の自分を見ているような人だ。」（ヤコブ1：23 参照）それだけで私は…「主よ、早く来てください。」となります。毎朝のことですが、まあいいです。すみません。鏡の中の自分を見て、鏡に映った自分を見たとき、何が起こりますか？身だしなみを整えます。「髪の毛がこんなところに来ている。前はあった髪の毛が、もうなくなっている。」そして、髭を剃って、髪をといて、歯を磨いて、顔を洗って…ですね？ではヤコブは何を言っているのでしょうか？少し大げさだとは思いますが、要点はお分かりですね？ヤコブは、それが神の御言葉というものだと言っています。もし私が、ただ神の言葉を聞くだけの者なら、自分自身を見ているのです。ちなみに自分の本当の姿です。これはアプリが出てくる前の話です…何でしたっけ？あなたの見た目が…実際、私は髪の毛を増やして若く見せるために、そのようなアプリが必要です。しかし、そのアプリはすごくいい感じにしてくれます。「誰だ!？」って感じですよ。おお、何てアプリでしょう。今や、そんなアプリがあるのです。それはさておき、神の御言葉に戻しましょう。神の御言葉にはそんなアプリはありません。なぜなら、神の御言葉を読むと…「ほ〜！」ほ〜！私はこのことについて何かをすべきだ。「すべき」です。そして、あなたは神の…（マイクに当たる）おっと、申し訳ありません。ごめんね、マイク。私は神の御言葉を行う者です。私はキリストの言葉を実践します。さて、これは最後の締めになります。すでに終わりにすると言ったのは分かっています。しかし、繰り返しますが、今日のアップデートについて考えています。私は長年にわたって、聖書預言を学び、教えてきました。これを見ていると、私は、一歩下がらなければならないと言う必要があります。なぜなら、ほとんど非現実的な感じがするからです。なぜなら、私が話したり教えたりしてきた これらのことが、今まさに起こっているからです…！それらは今、起こっています。私たちはとても近づいています。本当に近づいています。イエスが来られます。しかしだからと言って、彼が来る前に 本当に大変なことにならないわけではありません。私たちは、携挙の前に、限りなく悪い困難や迫害さえも 経験するかもしれません。クリスチャンの人生の家は、岩の上に建てるべきです。そうでないと、耐えられません。お立ちください、祈りましょう。主よ、ありがとうございます。主よ…主よ、私は最善を尽くしました。私は、忠実で、あなたの御言葉を正しく分け与え、教え、説教してきた者としてみなされたいです。主よ、ここには、私たちの指揮官としてあなたを喜ばせたいと思わない人は、一人もいないと思います。揺るぎない岩の上に家を建てたくない人は、一人もいないと思います。あなたが岩です。イエス様、あなたが岩です。主よ、私たちが今日ここで、あなたの御言葉の中で 見てきたことを、受け止めてくださり、そして、あなただけが出来る方法で、聖霊によって 私たちの生活の中にそれを構築し、私たちの生活に適応する過程を始めてくださることを祈ります。主よ、感謝します。私たちはあなたをととても愛しています。イエスの名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7